

ジェネリック医薬品

医療費節約

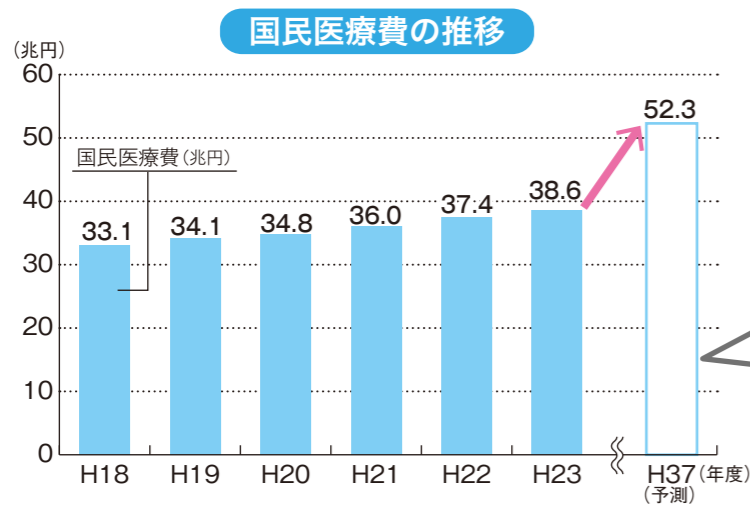
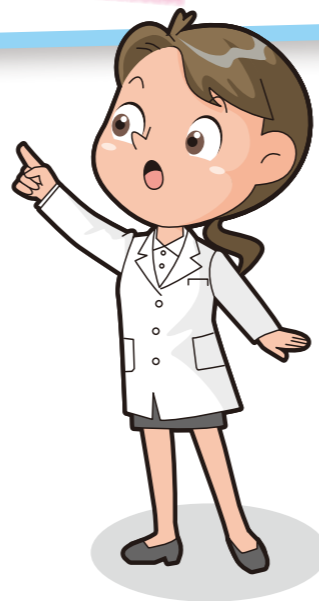
抑えの切り札!



今では「ジェネリック医薬品」ということばも、すっかり浸透しました。とは言え、欧米諸国に比べて普及率ではまだまだ不十分です(※)。

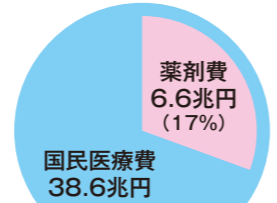
また、国民医療費は高齢化などに伴い年々増え続けており、薬剤費の占める割合も同様に増え続けています。国では、「ジェネリック医薬品」のさらなる普及を国民医療費削減の切り札として推進しています。

改めて、「ジェネリック医薬品」について、ご確認ください。



〔平成23年度 医療費の動向〕〔平成22年度 高齢者医療制度改革会議資料〕(厚生労働省)を基に作成

国民医療費に占める薬剤費の割合 (平成23年度)



〔平成23年度 国民医療費の概況〕(厚生労働省)



(※)ジェネリック医薬品の普及率

厚生労働省によると、平成23年9月時点でのジェネリック医薬品の普及率(数量シェア)は40%(新指標)となっており、アメリカの90%以上、ヨーロッパ諸国の60~80%に比べて、まだまだ低い状況です。厚生労働省では平成30年3月までに普及率60%以上をめざしており、そのためにジェネリック医薬品の安定供給や品質に対する信頼性の確保などの施策に取り組むことになっています。

センコー健康保険組合

センコー健保の

「ジェネリック医薬品差額通知」

通知内容

実際に医師に処方された薬の中で、ジェネリック医薬品に切り替えることができる薬をピックアップし、ジェネリック医薬品に切り替えた場合の具体的な金額をお知らせします。

通知対象者

ジェネリック医薬品に切り替え可能な薬を処方されている被保険者および被扶養者で、一定額以上の自己負担削減額のある方

平成25年まで：300円以上

↓
平成26年から：100円以上に拡大

通知方法

会社経由で封筒に入れて配布
(年4回 5・8・11・2月)



同封されているもの

①ジェネリック医薬品差額通知の送付について(案内文書)

「ジェネリック医薬品差額通知」の送付について

当組合の運営につきましては、平素よりご協力をいただき、誠にありがとうございます。今般、皆様の医療機関でのお薬代の削減と、健保組合財政の改善を目的に、実際に処方された医薬品(先発医薬品)をジェネリック医薬品に変更した場合にお薬代がどれくらい削減できるのか、一例をご確認いただける文書をお送りさせていただきます。この文書は、ジェネリック医薬品への変更を強制するものではありません。医師や薬剤師にご相談の上、ご利用についてご検討いただければと思います。

ジェネリック医薬品でお薬代を安くしましょう!

「ジェネリック医薬品」は、莫大な費用をかけて開発された「新薬」の特許が切れた後、同じ成分・効き目で製造販売できるため、開発費が抑えられ、より安く販売することが可能です。

効き目は? ジェネリック医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と確認された上で、製造・販売許可されています。

種類は? 高血圧や高脂血症、糖尿病のお薬など、さまざまな病気や症状に対応しています。カプセル、錠剤、点眼剤など形態も豊富です。

ジェネリック医薬品への変更は、医師や薬剤師に相談を

ジェネリック医薬品は有効成分が新薬と同じであっても、薬の形や添加剤等に違いがあるため、効果や副作用に違いが生じる場合があります。このため、お薬によってはジェネリック医薬品へ変更できない場合があります。変更を希望する場合は、医師や薬剤師にご相談ください。

この文書に関するお問い合わせ先

センコー健康保険組合 電話 0982-41-0330
受付時間 平日 9:00~17:00
〒882-0071 宮崎県延岡市天下町 1176-13

②ジェネリック医薬品差額通知書

見本

ジェネリックに変更することで減らせるお薬の負担額(この合計金額が100円以上になる方にお知らせしています)

この3ヶ月間に処方された医薬品で算出

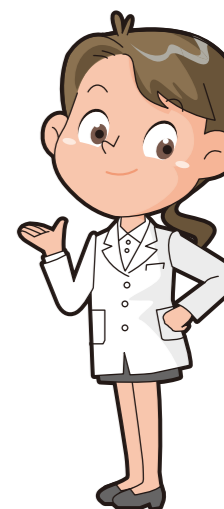
ジェネリックに変更可能な医薬品の一覧

ジェネリックに変更済の医薬品の一覧

「ジェネリック医薬品差額通知」は今年も実施しますので、薬代の節約に大いに活用ください。

「ジェネリック医薬品差額通知」を送付して、節約効果をご案内しています。

当健保組合では、薬代の節約が期待できる人を対象に「ジェネリック医薬品差額通知」を送付して、節約効果をご案内しています。



薬代の節約に

「ジェネリック医薬品差額通知」を

活用ください

Why don't you?

ジェネリック医薬品を

利用しましょう！



なぜ、欧米に比べてジェネリック医薬品が普及しないのでしょうか？



①安全性に対する不安

「安くて本当に効き目があるのか」「安全性は大丈夫なのか」という不安から、先発医薬品を使用している人がいるかも知れません。ジェネリック医薬品は、先発医薬品と効き目や安全性が同等であると証明されたものだけが、厚生労働大臣によって承認されます。

また、製品によっては、先発医薬品よりもみやすくするように薬の大きさや味、匂いの改良や保存性の向上など、より工夫されたものもあります。薬事法によって品質基準をクリアしているジェネリック医薬品。安心してお使いください。

②ジェネリック医薬品に切り替えるのが面倒

かつては、患者側からジェネリック医薬品をお願いしないと利用できないこともありましたが、現在では、ジェネリック医薬品が処方されやすいように処方せんの様式が変更されたり、薬局でも積極的に利用を勧めるようになってきました。

ジェネリック医薬品に切り替えたい場合は、まず医師や薬剤師に相談しましょう。ただ、先発医薬品の特許が切れていないなど、ジェネリック医薬品がない場合や、医師の治療上の方針からジェネリック医薬品に替えられない場合もありますのでご注意ください。

薬代が安くなる



メリット



ジェネリック医薬品の節約効果

病名	服用例	先発医薬品	ジェネリック医薬品	差額
花粉症	1日2回、30日間服用した場合	1,070円	110円	▶ 960円
糖尿病	1日3回、1年間服用した場合	19,360円	11,120円	▶ 8,240円
脂質異常症	1日2回、1年間服用した場合	24,120円	9,590円	▶ 14,530円
高血圧症	1日1回、1年間服用した場合	34,670円	11,200円	▶ 23,470円
脳梗塞・心筋梗塞	1日3回、1年間服用した場合	56,930円	12,660円	▶ 44,270円

*表の価格は、各疾病に対して処方される一般的な薬代の3割自己負担分を計算したものです。患者が窓口で支払う薬代には調剤技術料や薬学管理料などが含まれます。
*薬価は平成26年2月現在

当健保組合での節約効果

当健保組合が実施している「ジェネリック医薬品差額通知」によって、ジェネリック医薬品に切り替えたことによる節約効果は右表のとおりです。

平成25年度上期1カ月平均の薬代

	人数	平成24年度①	平成25年度②	削減額①-②
差額通知を配付したあと節約できた人	178人	2,273千円	1,227千円	▲1,046千円

※前年同月での「理論値」。

ジェネリックにした人は薬代が大きく減っています

「お試し調剤」を利用する

ふだん服用している薬をジェネリック医薬品に変更するのが不安な場合は、「お試し調剤」で試してみたいかがでしょうか。高血圧症などの慢性疾患などで長期に服用する薬を処方された場合などは、最初の1週間くらいをジェネリック医薬品に替えて様子を見ることもできますので、まずは薬剤師にご相談ください。



医療機関の窓口で「お願いカード」を提示しましょう

ジェネリック医薬品を利用したいときは、「ジェネリック医薬品を使えますか？」と、医師・薬剤師に相談しましょう。もし、相談しづらい、言いづらいときは、病院で診察券を出す際や、薬局で処方せんを渡す際、「ジェネリック医薬品をお願いカード」を提示するとよいでしょう。



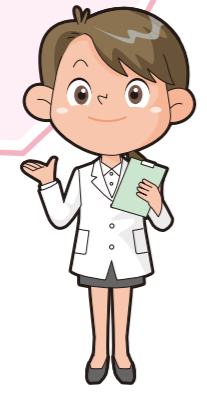
WEBで検索する



- かんじゃさんの薬箱 <http://www.generic.gr.jp/> (日本ジェネリック医薬品学会)
- ジェネリックガイド <http://www.generic-guide.jp/> (日本調剤株)
- かんたん差額計算 <http://www.jga.gr.jp/easycalc/> (日本ジェネリック製薬協会)

ちょっとおさらい

ジェネリック医薬品



新しく開発された薬(先発医薬品・新薬)には、膨大な費用と時間がかかるため、約20〜30年の特許期間が与えられます。特許期間を過ぎると、他の製薬会社も同じ有効成分を使った薬を「ジェネリック医薬品」として製造・販売できるようになります。開発費用を大幅に抑えることができ、先発医薬品の2〜7割の価格で販売されています。